



### 東稲山麓地域の世界農業遺産および日本農業遺産の認定に向けて

(平泉町長島地区、一関市舞川地区、奥州市生母地区)

平泉町、一関市、奥州市、県および地元団体で構成する東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会では、東稲山麓地域の世界農業遺産および日本農業遺産の認定を目指し、7月に申請書を提出しました。

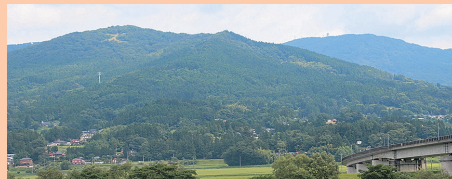
その結果、現地調査および二次審査会を行う旨、9月18日に通知がありました。

今後は10月19日に地元で現地調査、令和3年1月27日に二次審査会(プレゼンテーション)が東京で行われます。

#### ■問い合わせ先

東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会事務局(県南広域振興局農政部)

☎0197-22-2841



認定を目指す東稲山麓地域

品種は「ツルクビ」で、粘りがあっておいしいですよ!

## 道の駅平泉 得情報

■問い合わせ先…道の駅平泉 ☎48-4795



自慢のサトイモを紹介する利治さん

【10月のお薦め農産物】  
■サトイモ  
秋の味覚を味わえる「いものこ汁」に欠かせない食材のサトイモ。道の駅平泉では、9月末頃から順次町内産のサトイモを販売します。長島地内でサトイモ

を栽培している16区の千葉利治さんは「サトイモは、水の管理が大変なので夏場の水やりが大変でした。丹精込めて作ったおいしい『いものこ』なのでぜひ食べてみてください」と話していました。

### レストラン 10月のイチオシ! 秋冬メニュー

寒くなるこれからの季節にぴったり!

ピリ辛な濃厚スープにもちもちした麺で昨年好評だった「担々麺(850円)」と今年からの新メニュー「きのこそば(700円)」、「きのこうどん(700円)」の提供を始めました。体が温まる秋冬メニューです。



担々麺ときのこそば



平泉喜桜会に整備されたテントや衣装など

町では、一般財団法人自治総合センターが行う、宝くじの社会貢献広報事業である「コミュニティ助成事業」の助成を受け平泉喜桜会の活動に必要な備品を整備しました。  
今後これらの備品を活用した活動の活性化が期待され、コミュニティ活動のさらなる活性化を図っていきます。



### 平泉喜桜会の活動活性化に期待

#### ■平泉喜桜会

《助成額》250万円  
平泉喜桜会(鈴木四郎会長)では、コミュニティ活動用品として、白丁烏帽子3基、白丁6着、白丁烏帽子6個、狩衣10着、袴20着、兵児帯10本、紋付10着、襦袢10着を購入しました。これらの備品を活用して、地元での公演や謡曲講座などの伝承活動を通じて地域コミュニティ活動の活性化が期待されます。

### 災害時やイベントでの活用を期待 循環式トイレ「エコまるくん」の展示説明会

屋外の太陽光発電だけで汚水を浄化し、水洗トイレに再利用する循環式トイレ「エコまるくん」の展示説明会を役場駐車場で9月3日に開催しました。

「エコまるくん」を開発した同名企業の鳴瀧康史代表取締役がトイレの循環の仕組みについて説明し「平泉の景観に合わせた外観が木製のトイレを年内に試験導入したい」と話していました。この循環式トイレは、環境保全だけでなく移設も容易で災害時やイベントでの活用を期待されます。



### 元気いっぱい駆ける 長島保育所で運動会

9月12日、長島体育館で長島保育所の運動会を開催しました。

雨天のため屋内での開催となりましたが、園児たちは元気よく行進し、かけっこや親子チャンスレースなどの競技では笑顔で駆けていました。また大きな声でお友達を応援する頼もしい姿を見せていました。ばら組による鼓隊演奏とうめ組によるカラーガードの演技が披露されると、保護者から盛大な拍手が送られていました。



### まちの理想の未来を語る

#### - 町総合計画町民ワーキンググループ -

9月12日から、まちの将来像を検討する「第6次平泉町総合計画町民ワーキンググループ」がスタートしました。

町内の高校生、若者・子育て世代、協働のまちづくりサポーターから18人が集まり、第1回は「話そう! まちの現状と課題」をテーマに、地域の資源(強み)と課題(弱み)について意見を出し合い、グループごとに理想のまちづくりに向けたアイデアを発表しました。ここで出た意見は、町の新たな10年間の方向性を定める「町総合計画」に反映されます。



### 100歳の節目を祝う

#### 熊谷コノエさんが百寿を迎える

特別養護老人ホームふくしの里慶泉荘に入所する熊谷コノエさんが9月15日、満100歳の誕生日を迎えました。

当日は同ホームでお祝い会が開かれ、新型コロナウイルス感染症防止のため出席できない町関係者に代わり、ホーム職員から花束と記念品の贈呈を受けました。ゲートボールや旅行が趣味だったという熊谷さん。長寿の秘訣は「食事はいつも腹八分目だったからではないか」と家族は話します。ホーム職員たちの笑顔に囲まれながら長寿を祝いました。

